

2	一宮	葉栗中学校	ナ ス マコト
			名 前 那 須 麻 琴
分科会番号	2	分科会名	外国語教育

研究題目 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して
 ——読解力を高める授業の構築——

1 主題設定の理由

スマートフォンをはじめとしたデジタルデバイスの普及による情報処理に追われる時間の多さや、少子化や核家族化、地域社会との関係の希薄化による、他者とコミュニケーションをとる機会の減少など、現代の子どもたちの環境は大きく変化している。このような時代を生き抜く子どもたちには、言葉の意味を理解して本質をつかんだり、膨大な情報の中で必要な情報を読み取り活用したりする、「読解力」を身につけることが必要不可欠である。しかし、近年日本人の子どもたちの読解力低下が問題視されている。本校の3年生159名が受けたNRTの英語科の結果では、聞くこと読むこと話すこと書くことの4技能のうち、読むことの正答率が一番低く、特に「英文を正しく読み取る問題」、「必要な情報を判断して読み取る問題」の正答率が全国平均より低い結果であった。4月の英語科アンケートでは、英文を読んでTorFの問題に答えることができるかという問いに対し、59%の生徒ができる、どちらかといえばできると答えたが約40%の生徒は、TorFのような真偽を問う問題にも自信をもって答えることができていないことが分かった。

こうした現代社会と本校の生徒の現状を踏まえ、本研究では、文章からその概要や必要な情報を読み取る力を育てるとともに、学びをアウトプットする場面を与えることで、それらを利用したり、熟考したりする力を育て、生徒の「読解力」を高めることにつなげたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

(1) 目指す生徒像

「まとまりのある英語の文章を読んでその概要を捉えたり、必要な情報を読み取ったり、それについて熟考し、自身の考えやその理由を説明できたりする生徒」

(2) 研究の仮説

読解に必要な知識や技能を身につけさせると共に、本文指導の過程でリーディングスキルを身につけさせ、学びをアウトプットする場面を与えることで、テキストを理解したり、利用したり、熟考したりする力「読解力」を高めることができるであろう。

3 研究の方法

研究の具体的な手立てとして、次の4点を考えた。

(1) <手立て1> 読解に必要な単語や文法などの基礎知識の定着

①イラストを用いた単語学習

スライドを使用し、新出単語をイラストとともに導入する。また、全体で発音するだけでなく個人指名で一人一人に発音させる時間を設け、複数回の授業で継続的に行うことで定着を促す。

②言語活動

帯活動として、イラスト・写真や語を提示し説明させる「Picture (Word) Description」、頭の中で何かをイメージさせペアが質問をしてそれがだれか、何かを当てる「Who am I? (What's this?)」のような活動を継続的に行い、既習の単語や文法の復習と、それらを活用する力を養う。

(2) <手立て2> 読解スキルを身につけさせる本文指導

①本文の内容を日本語でまとめる活動

本文を読んだあとに、その内容を日本語でまとめたワークシートの空所に日本語を補充する活動に取り組みさせることで、内容を理解、整理させる。

②音読活動

教員に続いてリピート、スライドのアニメーションを用いた速読、部分英訳で内容を意識させた音読等、様々な方法で複数回音読をさせることで、速く読む力だけでなく、正確に意味を捉えながら読む力を育てる。

③Summary シート

本文の内容をある程度確認した後、本文とは異なる表現で書かれた要約に取り組みさせ、深い読み取りにつなげる。最初は選択肢から正しいものを選ぶ様式から始め、その後内容が異なる箇所を訂正する様式、自分で一から要約する様式へと段階を踏んで難易度を上げる。

(3) <手立て3> 学習した内容や自分の意見をアウトプットする場面の設定

①本文の内容や Point of View に関する Map の作成

本文指導後、本文の内容や Point of View の問いに対する思考 MAP を作成させ、学習内容や自分の意見をアウトプットし、情報の整理、学習内容のまとめをする活動を行う。

②Point of View の問いに対する自分の意見を英語で書く活動

各 Unit にある Point of view の問いに対する自分の意見を、思考 MAP を参考にし、学習内容を活用しながら英語で書かせる。その後ペアや全体で発表する機会を与え、意見を共有させる。

(4) <手立て4> WPM (words per minute) と読解効率の測定

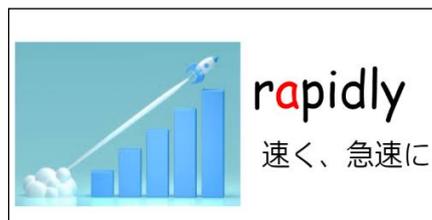
「すらすらリーディング」という取り組みとして、定期的に100語程度と同じ難易度の英文を Chat GPT を活用して作成し、生徒に与え、速読と TorF の問題に取り組みさせる。語数と読み終わった秒数から WPM 値、TorF の正答数から読解効率を算出し、スプレッドシートに毎回記録させる。その変化をグラフに表すことで、自身の記録の変化や成長を可視化する。

4 研究の実際

(1) <手立て1> 読解に必要な単語や文法などの基礎知識の定着

①イラストを用いた単語学習

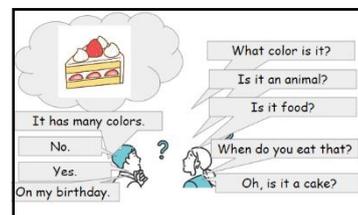
新出単語はイラストとともに導入し、意味を推測させた。一通り意味を確認した後、日本語とイラストを見せて英語を確認した。全体発音練習だけでなく、1人1人発音を確認し、複数回継続的に行った。熟語や重要語句は、その単語を使った英文も確認し、その語を活用する力をつけさせることを意識した。



【資料1】単語指導時のスライド

②言語活動

帯活動として「Picture (Word) Description」「Who am I (What's this?)」のような活動を継続的に行い、既習の単語・文法の復習やそれらを活用する練習をさせた。タイマーで時間の制限を設け、相手に伝わったら座れるなど明確なゴールを設定した。時間と目的を意識させることでどの生徒も意欲的に活動できていた。



【資料2】What's this?の活動

(2) <手立て2> 読解スキルを身につけさせる本文指導

①本文の内容を日本語でまとめる活動

本文を読んだあとに、その内容を日本語でまとめたワークシートの空所に日本語を補充する活動に取り組ませた。本文の日本語訳ではなく、要約や表・図でまとめたものとするので、長文の中から自分で必要な情報を読み取る力を育てることを意識した。最初は1人で取り組みせ、その後ペアでお互いに分からなかったところを確認、教え合いをさせた。この活動を継続的に行うことで、必要な情報を読み取るために、キーワードを探しながら、テキスト読み進めるスキルを身につけさせることができると考える。

日本のトキ	日本のあちこちでたくさんのトキが見られていた。しかし、() 急速に () 減少し始めた。→原因 () () を求めて狩猟された。 () () を破壊した。
1981年	佐渡島で () を目的に () 羽のトキが捕らえられた。人々は、トキが () するのを助けようとしたが、1羽ずつ () 。
2003年	最後の1匹が () 。
現在	まだ () 生まれのトキが佐渡島にはいる。→1990年代に () から離れたものである。人々は、その時からずっと、そのトキを () している。

【資料3】U3R&T1の本文プリント

②音読活動

教員に続いてリピート、スライドを用いた速読、部分英訳で内容を意識させた音読等、様々な方策で繰り返し読ませることで、飽きさせずに音読回数を増やし、速く読むだけでなく、内容を理解しながら読む力を身につけさせることを意識した。ペア活動などの活動形態の工夫や時間の設定の工夫で、協力、競争意識をもたせることで、全員が参加し、意欲的に取り組むことができていた。



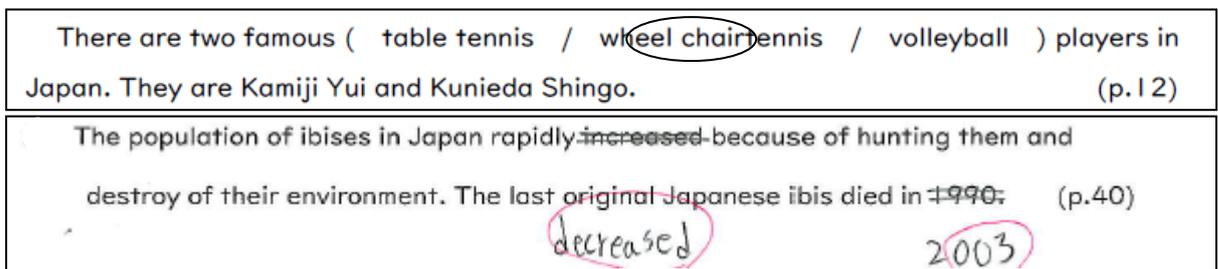
【資料4】文字が消えるスライド



【資料5】部分英訳のスライド

③Summary シート

本文をある程度確認した後、本文の要約活動に取り組ませることで、内容の深い理解を促した。Unit1・2では、選択肢から正しいものを選ぶ様式にし、Unit3では内容の内容と異なる箇所を訂正する様式へと難易度を上げた。最終的には自身の力で要約ができることを目指す。



【資料6】選択肢のある様式(上)、異なる箇所を訂正する様式(下)

(3) <手立て3> 学習した内容や自分の意見をアウトプットする場面の設定

①本文の内容や Point of View に関する MAP の作成

MAPの作成は、2年時のUnit6から実践している。各UnitのScene1~Read & Think2までを通して行い、それぞれの本文の内容から学んだことや感じたこと、Point of Viewに対する自分の意見をまとめさせた。Unit全体を通しての学びや自分の意見が1つのMAPで整理され、学びを可視化することができた。最終的にはPoint of Viewに対する自分の意見を書く際の、手がかりとなるように工夫して作成するよう指導した。



【資料7】Unit3のMAPシート

②Point of view の問いに対する自分の意見を英語で書く活動

Unit の最後の授業で、Point of View の問いに対する意見文を書かせた。各 Unit の Scene1～Read & Think2 を通して作成した MAP を参考に、学習内容を活用しながら書くように助言・指導をした。活動させる中で、分からない単語を調べるときのみ、Chrome book の使用を許可した。書いた英作文の文法や単語の間違いは、教員が朱書きで訂正し、指導した。

(4) <手立て4> WPM (words per minute) と読解効率の測定

「すらすらリーディング」という取り組みとして、定期的に100語程度の同じ難易度の英文を Chat GPT を活用して作成し、生徒に与え、速読と TorF の問題に取り組ませる。スクリーンにタイマーを表示し、読み終えた生徒はその時間をメモし、裏面の TorF に取り組む。その後、TorF の答え合わせをし、スプレッドシートに読み終えた秒数と語数、TorF の正答数を入力することで WPM【読んだ語数÷読むのにかかった秒数×60】と読解効率【WPM×(正答数÷問題数)】を算出し、その結果をグラフに示した。グラフの結果を踏まえて、早く読むだけでなく、より正確に内容を捉えながら読むことを意識させる声かけをした。少しずつでも成長していく様子がグラフで可視化され、意欲的に取り組む生徒が多くいた。

スラスラ リーディング					
	↓ 入力するのはここだけ ↓				
	語数	秒数	問題正答数	速読WPM	読解効率
第1回	120	110	5	65.45454545	54.54545455
第2回				#DIV/0!	#DIV/0!
第3回				#DIV/0!	#DIV/0!
第4回				#DIV/0!	#DIV/0!
第5回				#DIV/0!	#DIV/0!
第6回				#DIV/0!	#DIV/0!
第7回				#DIV/0!	#DIV/0!
第8回				#DIV/0!	#DIV/0!

すらすらリーディング

Cajon

Tom loves music. One day, he saw a musician, and he is playing a cajon on the street. Tom was curious and watched closely. The musician sat on the cajon and hit it with his hands. It made many different sounds. Tom liked the deep and sharp tones. He asked the musician about the cajon. The musician said it was from Peru and easy to learn. Tom decided to buy a cajon. He practiced every day at home. Soon, Tom could play many rhythms. He even played with his friends in a small band. Tom was happy because he could make music with his cajon. It became his favorite instrument.

[TorF]

- Tom saw a musician, and he is playing a guitar on the street.
- The musician sat on the cajon and hit it with his legs.
- Tom liked the deep and sharp tones of the cajon.
- The musician said the cajon was from Peru and difficult to learn.
- Tom was sad because he could not make music with his cajon.
- Tom played the cajon with his friends in a small band.

6

【資料8】記録をするスプレッドシート

【資料9】すらすらリーディングシート表(左)裏(右)

5 研究の成果

(1) <手立て1> 読解に必要な単語や文法などの基礎知識の定着

①イラストを用いた単語学習

イラストと共に導入し、単語指導を行うことで、生徒の記憶時間の長さに明らかな違いがあることを感じた。1学期最後に、Unit1～Unit3までの単語を10問ずつ出題し、日本語を見て英語で答えさせる単語テストを実施した。すると、学習してから期間がたっているUnit1の単語の正答率が記憶の新しいUnit3の単語の正答率とほとんど変わらない結果となった。ここから、イラストで導入した単語指導は、単語の定着につながったと考えられる。また、授業後のアンケートでは、イラストで学習することで印象に残りやすく、覚えやすかったと話す生徒が多くいた。

Unit1	Unit2	Unit3
76%	78%	78%

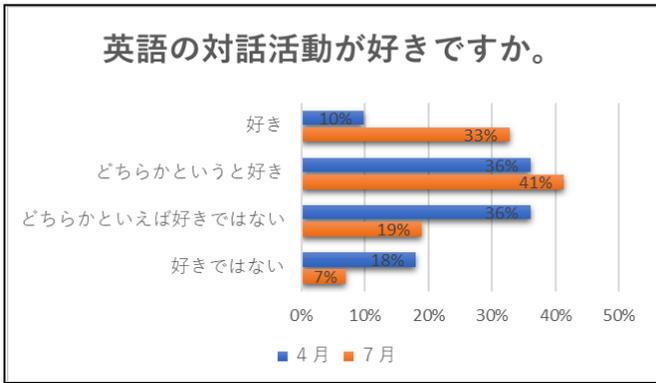
先生がイラストつきで説明してくれたおかげで、言葉だけ見て覚えるより、覚えやすくなりました。

【資料10】単語テストの正答率

【資料11】生徒の感想

②言語活動

英語の授業に関するアンケートで、「英語の対話活動が好きですか。」という問いに対し、好き、どちらかといえば好きと答える生徒の割合が4月の46%から7月には74%に増えた。継続的な取り組みで、生徒の言語活動への苦手意識がなくなり、自信や意欲が高まったことがうかがえる。1学期の振り返りでは、「言語活動を通して、これまで学んだ単語や文法の復習ができた」という声や、「ペアでやることで楽しく学びながら語彙を増やすことができた」、「相手にどうしたら伝わるのか考えながら工夫して話せた」など、前向きな発言がたくさん見られた。



どうい質問で、どう返したらいいのかなど考える機会ができた。
 伝えたときは喜んで伝わりながら、どう伝えればいいのか考える
 ことができた。

・どうしたら、相手にぐに分かりもらえるかなどを
 考えて話すことで、単語や文法の使い方を自分で考え
 使うことが少し上手になった。

【資料 1 2】 授業に関するアンケート調査

【資料 1 3】 言語活動の生徒の感想

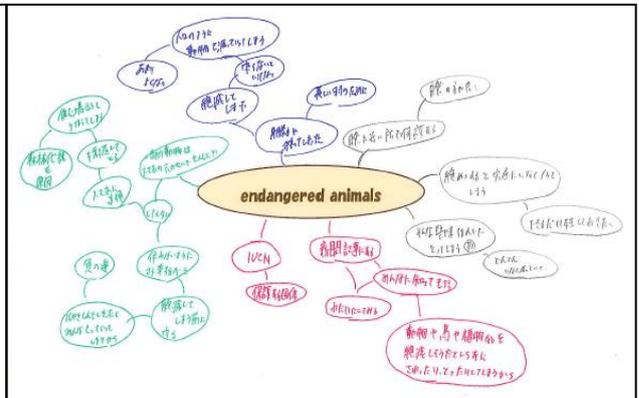
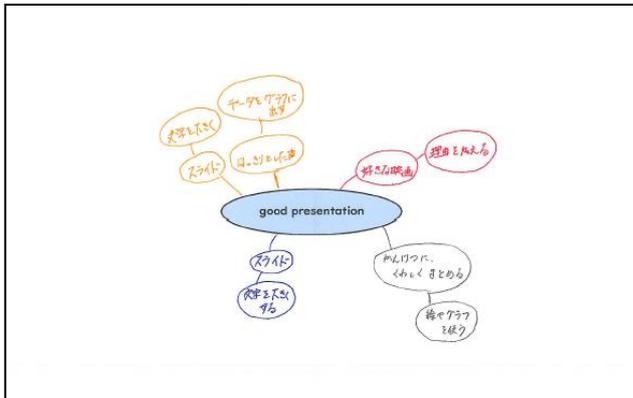
(2) <手立て 2> 読解スキルを身につけさせる本文指導

本文指導の最後に行う summary シートの活動では、ほとんどの生徒が正しく要約することができていた。ここから、空所補充のワークシートや音読活動が本文内容の深い理解や読解スキルの育成につながったと考えられる。

(3) <手立て 3> 学習内容やそこから自分の意見をアウトプットする場面の設定

①本文の内容や Point of View に関する MAP の作成

【資料 1 4】 はある生徒の 2 年時の Unit6 と 3 年時の Unit3 の MAP である。2 つを比べると、より詳しく本文の内容をまとめることができ、それに対する自分の意見の記述も見られるようになった。中には、英語で MAP を書く生徒もいた。MAP を作成することで、各 Unit の内容の深い理解と自分の意見の整理につながり、学習の活用に生かされた。



【資料 1 4】 2 年 Unit6 の思考 MAP

【資料 1 5】 3 年 Unit3 の思考 MAP

②Point of view の問いに対する自分の意見を英語で書く活動

【資料 1 6】 は、生徒が書いた Unit3 の Point of View の問いに対する意見文である。本文内容を熟考し、それらを活用し、自分の意見を説明することができている。また、自分の意見をペアに発表したり、全体で発表したりする時には、どんな意見を書いたのか興味深く聞く様子や発表後に聞き取った内容が合っているかを確認する様子が印象的であった。ただ読み取るだけでなく、それらを熟考、活用することこそ、本文内容の深い読み取りや、読解力の育成につながると考える。

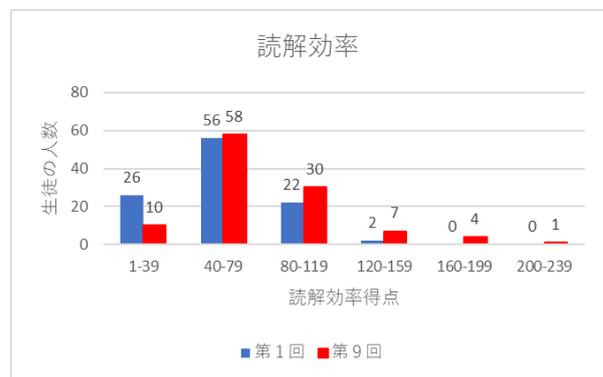
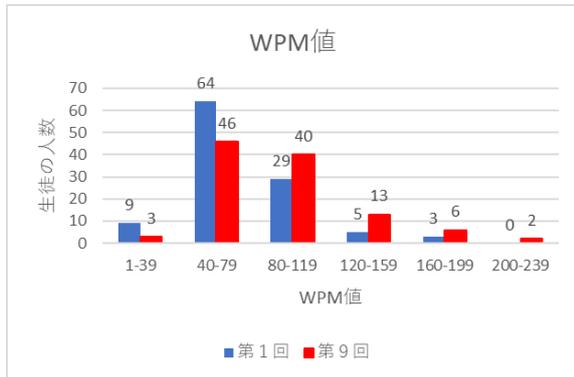
We have to protect endangered animals. Because, endangered animals were died by many people. For example, people hunting, logging, mining, development destroy environment and so on. so they died because people took away their places.

We should think this problem. I think everyone should use things that are good for the environment.

【資料 1 6】 ある生徒が書いた Unit3 の英作文

(4) <手立て4> WPM (words per minute) と読解効率の測定

全9回すらすらリーディングの活動を行った。【資料17】のグラフは第1回と第9回のWPM値と読解効率の変容を表している。青色が第1回、赤色が第9回で、横軸がそれぞれの数値、縦軸がその数値の生徒の人数である。この結果から、WPM値、読解効率どちらも点数が大きく伸び、全体的にも記録がよくなったことが分かる。



【資料17】WPM値・読解効率の変容

右の【資料18】は、ある生徒の記録した第1回から第9回までのWPM値と読解効率のグラフである。青がWPM値、赤が読解効率を表している。第1回から読解効率を維持しながらWPM値を少しずつ伸ばしてきたが、第8回でWPM値が大きく上がり、読解効率下がった。そこで速く読むだけでなく内容を捉えながら読むことを意識するように助言し、第9回では、読解効率を維持しながら、WPM値を伸ばすことができていた。また、1学期の授業の感想では、「すらすらリーディング」の活動を通して、自身の成長を感じながら前向きに取り組むことができたと話す生徒が多くいた。



【資料18】生徒個人のグラフ

<p>長文を読むのが苦手で読む前から諦めていたけど、すらすらを始めて理解できたものの楽しめてきた。</p>	<p>すらすらリーディングができていくうちに、WPMの値が上がって、自分の実力が上がっていることを実感できて嬉しかった。これからWPM110を目指して頑張りたい。</p>
---	---

【資料19】すらすらリーディングの生徒の感想

さらに、7月の英語科授業アンケートの「長文を読んで TorF のような真偽の判断ができるか」という問いに対して、できる、どちらかといえればできると答えた生徒は、82.9%で、4月のアンケート結果である59%から大きく変化した。ここから、これら4つの手立てが生徒の読解力を高めることにつながっただけでなく、読むことに対する苦手意識をなくし、自信につなげることができたと考えられる。

6 今後の課題

読解力を身につけるためには、正しい知識と読解スキルを身につけるだけでなく、読み取ったことを利用したり、熟考したりしながらアウトプットすることの必要性を実感した。どの実践においても、すぐに効果がでるものではなく、継続的に取り組む必要がある。今回の授業では、生徒が自ら考え、共に課題を解決したり、それぞれの意見を伝えあったりする場面を多く設けることができた。主体的・対話的で深い学び、これからもその実現を目指し、現代社会を生き抜く子どもたちに必要な読解力を育てていきたい。